

経済・金融 フラッシュ

商業販売統計 09年10月 ～引き続き自動車を中心に持ち直しの動き

経済調査部門 研究員 桑島 滋

TEL:03-3512-1838 E-mail: kuwahata@nli-research.co.jp

1. 引き続き自動車を中心に持ち直しの動き

11月27日に経済産業省から公表された09年10月の商業販売統計速報によると、小売業販売額は前年比▲0.9%の10兆8310億円と、14ヵ月連続の減少となった。悪化幅は09年7月以降4ヵ月連続で縮小している。季節調整済前月比では▲0.9%と4ヵ月振りの減少となった。物価変動の影響を除いた実質値(当研究所試算値)では、前年比3.5%と、5ヵ月連続の増加となった。金額ベースでの落ち込みは、物価下落の影響を強く受けているものと考えられる。

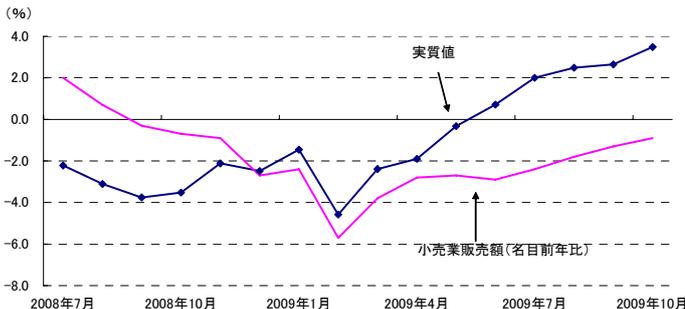
小売業及びコンビニエンスストア販売額(増減率)

	小売業								コンビニエンスストア販売額	
	前月比	前年比	大型小売店				スーパー		前年比	前年比(既存店)
			前年比	前年比(既存店)	百貨店	スーパー				
08年8月	0.2	▲0.7	▲1.0	▲2.2	▲3.1	▲2.9	0.1	▲1.8	6.7	5.1
9月	0.0	▲0.3	▲2.1	▲3.3	▲4.9	▲4.6	▲0.4	▲2.6	7.5	6.4
10月	▲0.6	▲0.7	▲2.9	▲4.3	▲7.2	▲6.9	0.0	▲2.6	9.8	7.9
11月	▲0.2	▲0.9	▲1.7	▲3.1	▲6.6	▲6.3	1.8	▲0.7	9.1	7.2
12月	▲1.7	▲2.7	▲4.8	▲6.2	▲9.7	▲9.6	▲1.1	▲3.6	7.8	5.8
09年1月	▲0.1	▲2.4	▲3.8	▲5.5	▲9.4	▲9.2	▲0.2	▲3.1	8.8	6.8
2月	▲0.2	▲5.7	▲6.5	▲8.1	▲11.8	▲11.4	▲3.4	▲6.1	4.0	2.0
3月	▲1.0	▲3.8	▲6.7	▲8.2	▲13.3	▲12.9	▲2.1	▲4.9	6.1	3.9
4月	0.7	▲2.8	▲5.0	▲6.7	▲12.0	▲11.3	▲0.7	▲4.0	6.5	4.0
5月	0.1	▲2.7	▲4.5	▲6.5	▲12.7	▲12.1	0.5	▲3.0	3.1	0.8
6月	▲0.2	▲2.9	▲5.2	▲6.8	▲10.1	▲9.1	▲2.1	▲5.4	0.9	▲1.7
7月	0.5	▲2.4	▲7.0	▲8.4	▲12.8	▲11.8	▲2.9	▲6.1	▲5.1	▲7.5
8月	1.0	▲1.8	▲5.0	▲6.8	▲10.3	▲8.9	▲2.4	▲5.7	▲3.0	▲5.6
9月	0.9	▲1.3	▲4.2	▲5.6	▲9.5	▲7.8	▲1.1	▲4.3	▲2.4	▲5.7
10月	▲0.9	▲0.9	▲6.4	▲7.2	▲12.3	▲10.6	▲2.7	▲5.2	▲2.9	▲5.6

(資料)経済産業省「商業販売統計」

業種別には、百貨店などの各種商品小売業が前年比▲7.2% (9月:同▲5.0%)、飲食料品小売業が前年比▲1.8% (9月:同▲0.3%)と悪化幅が拡大したものの、引き続き政策効果から自動車小売業が前年比11.6% (9月:同4.2%)と伸びを高めたことに加え、大幅低下が続いていたガソリン価格の下落幅が縮小したことから、燃料小売業が前年比▲3.7% (9月:同▲10.1%)と悪化幅が縮小した。寄与度別でみると、自動車小売業が1.3%、飲食料品小売業が▲0.6%、各種商品小売業が▲0.8%、燃料小売業が▲0.4%となった。

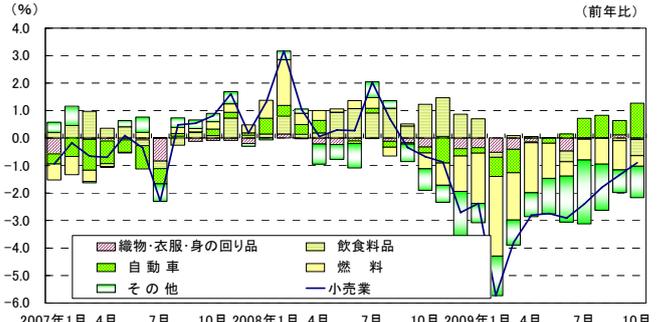
小売販売額の推移



(資料)経済産業省「商業販売統計」

(注)実質値については、消費者物価指数(「財」から「電気・都市ガス・水道」を除いたもの)により実質化

小売業販売額(業種別寄与度)

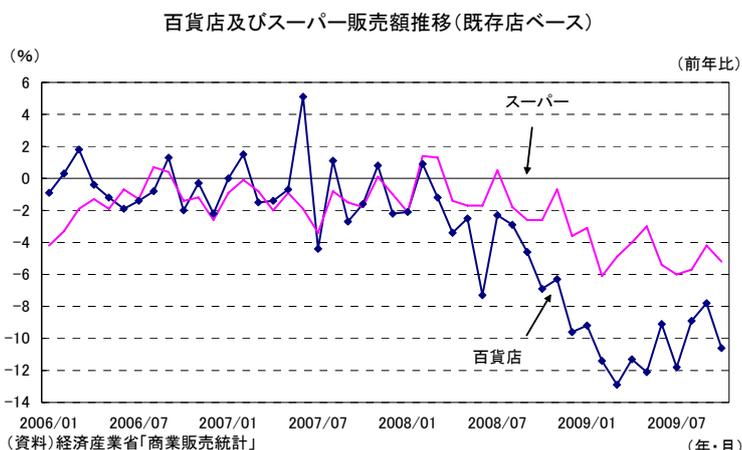


(資料)経済産業省「商業販売統計」

2. 低迷続く百貨店、スーパー

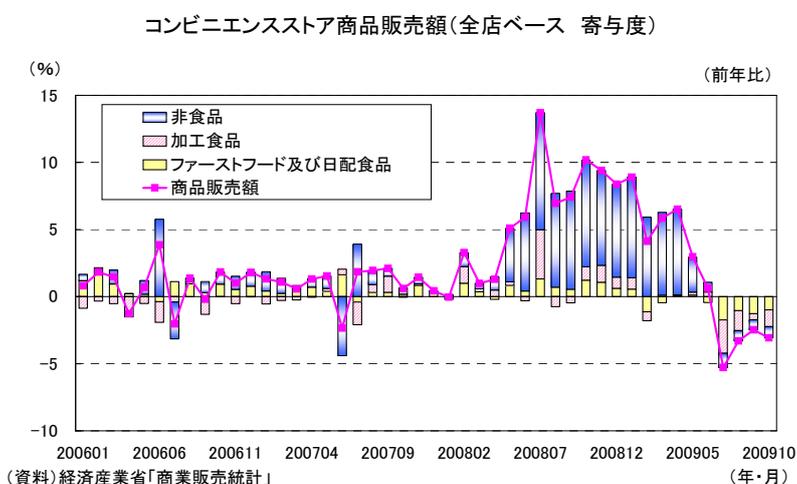
09年10月の大型小売店の販売額（百貨店とスーパーの合計）は1兆5608億円、既存店ベースで前年比▲7.2%となり、19ヵ月連続して前年を下回った。スーパー売上高（同▲5.3%）、百貨店販売額（同▲10.6%）共に主力商品である飲食料品、衣料品の落ち込みが響き、前月から悪化幅が拡大した。

百貨店販売額（既存店）を商品別にみると、紳士服・洋品（前年比▲13.6%、9月：同▲11.1%）、婦人・子供服・洋品（同▲13.8%、9月：同▲10.2%）となるなど、販売額の4割強を占める衣料品全体（同▲13.6%、9月：同▲10.2%）で悪化幅が拡大した。その他の商品では、飲食料品（同▲5.6%、9月：同▲2.9%）の悪化幅が拡大する一方、家庭用・電気機械器具（同8.0%、9月：同▲0.9%）は増加に転じた。



コンビニエンスストア販売額（商品販売額及びサービス売上高）は6739億円、前年比▲5.6%（全店ベース）と、4ヵ月連続して減少した。

商品別では、非食品（前年比▲2.5%、9月：同▲2.2%）、ファーストフード及び日配食品（同▲2.8%、9月：同▲3.6%）、加工食品（同▲4.0%、9月：同▲1.4%）であった。



エコカー減税などの政策効果から自動車販売等を中心に個人消費には持ち直しの動きが見られる。但し、雇用、所得環境が依然厳しい状況にあることに加え、9

ヵ月連続して上昇していた消費者態度指数が10月は横ばいとなり、消費者マインドの改善ペースも鈍化傾向となっている。個人消費の先行きについては当面、緩やかに回復が続くと予想されるが、政策効果が弱まるにつれ、息切れする可能性が高い。